

# 鹿児島県におけるウミガメ保護・調査と教育活動

## 鹿児島大学ウミガメ研究会

鹿児島大学ウミガメ研究会は、ウミガメ保護のため夜間パトロールや生態調査を通してウミガメ保護のために活動しています。鹿児島県のウミガメ保護条例制定のきっかけになった研究会です。

### 【活動背景】

絶滅危惧IA類に指定されているアカウミガメは、2010年以降数が減少しています。アカウミガメの保護には地域での砂浜環境保護が不可欠です。そのため多くの人に理解と協力してもらう必要があります。

### 【活動目的】

継続的な産卵巣の温度計測、食害の調査、死骸解剖調査を行い、ウミガメ保護において有効な方策の検討を行うことが目的でした。また、イベントでは多くの人にウミガメ保護に興味を持ってもらい、保護、保全活動に関わってもらうことが狙いです。

### 【団体からのメッセージ】

鹿児島大学ウミガメ研究会は、JAC様よりご支援をいただき2023年度のウミガメ保護活動を行ってまいりました。当会が調査している吹上浜は、野生動物によるウミガメの卵の食害や自然災害による砂浜環境の変化が深刻なものとなっています。JAC様のご支援のおかげで2023年度のウミガメ保護活動を完了することができました。今後も継続して調査保護活動を続け、絶滅危惧種アカウミガメの産卵場所を守っていきたいと思います。

鹿児島大学ウミガメ研究会 44代会長 長谷川央透



ウミガメの産卵数の調査風景

### 【助成金の用途・活動結果】

当財団からの助成金は、温度ロガーなど調査道具の費用に充てていただきました。

産卵数の調査ではほぼすべての巣がキツネによる食害にあっていることが発覚しました。そのため食害対策のプロジェクトを行うことが決定しました。

また、海岸環境保全に関する教育イベントや大学祭では展示にて研究の紹介を行い、子供やそのご家族も含めて多くの方にウミガメについて知ってもらうことができました。